

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300092		
法人名	社会福祉法人ほのぼの会		
事業所名	あかねの里 認知症対応型共同生活介護事業所 <なごみの家>		
所在地	出雲市上岡田町1031-1		
自己評価作成日	平成21年 10月 31日	評価結果市町村受理日	平成21年 12月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成21年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に恵まれ、地域住民の理解・支援があり、利用者・職員が共に安心して暮らせる環境である。又家族とのコミュニケーションをしっかりと、利用者の心身の安定に日々努力し、一人ひとりの笑顔ある生活を送って頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として地域福祉の核を担い、地域に支えられ、共に歩んできた経緯があり、地域交流の充実ぶりには感心させられる。自然に囲まれた環境にありながらも、すぐ隣は民家であり、日常的に地域住民との交流がみられる。1ユニット6人～8人の変則性3ユニットが特徴であり、ユニット間で連携しながらも、それぞれのユニットの利用者や職員の色(個性)を活かし、一緒に楽しく生活されている様子が窺えた。経験豊かな職員が多く、“仕事を楽しみ、相手を楽しませる”職員の質の高さを感じられた。又、利用者に対してだけでなく、職員同士が尊重しあって、認め合うことで、利用者へのケアに良い影響を与えていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中へ出かけ、利用者に安心して生活していただけるよう、又生活圏が広がるよう実践している	開設当初の理念を、全職員で見直し、現在の理念となった。ユニット毎に掲示され、わかりやすい自分達の理念として、全職員に浸透している。地域の中での暮らしを支えるための独自の理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入 行事に参加、近所との交流を続けている	地域に根付き、地区の多くの行事に、利用者と一緒に参加している。地域ボランティアとの交流も日常的で、利用者が積極的に地域に溶け込める工夫をしている。併設の交流館を開放して地域貢献にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域合同避難訓練や、地区の田舎流デイサービス、ボランティアさんとの交流の中で実践している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をもらい、地域の活動、参加の場を増やしたり、利用者の喜びに繋がるよう努力している	家族会会長や地域の方にも参加頂いて定期的に開催し、活発な意見交換をしている。交代で一般職員も参加されている。意見、要望については前向きに受け止め、サービスに活かしている。地域のボランティアの窓口にもなっている。	他の利用者家族にも案内されてはいますが、参加メンバーが固定しています。決まったメンバー以外に、ゲストを招いての話し合いは、内容を深め、話題の広がりから、新たな発見が期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなどきちんと教えていただいている	市の担当ケースワーカーが定期的に訪問し、利用者や家族と面談されるケースもあり、相談したり、市のグループホーム協議会や地域の連絡会、研修会等に参加し、相談の機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル、研修会に参加職員がきちんと理解し都度話し合いを行い、身体拘束の無いよう心がけ互いに注意するようにしている	日中は玄関に鍵を掛けず、常にホールや事務所に職員がいて目配りしている。3ユニット各玄関には、出入りをチャイムで知らせるようにしてある。職員主体の身体拘束・事故防止委員会も設けて、検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に話し合い、言葉の虐待等目に見えないことにも注意しあえる関係を作り、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解し話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時説明・同意を得、家族の不安などを聞き、都度理解をしていただくように話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との話し合いの中での意見、面会時及び家族会等での意見を聞き、反映できるよう話し合ったり、有識者の方々に相談している	毎月、広報誌や行事案内により、利用者の様子を知らせたり、家族に電話や手紙で状況報告をしている。家族会の総会や懇親会などで、職員との親睦を深めたり、毎年、利用者と共に生活している様子をビデオで上映し、家族の理解を深め、意見を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、主任者会議等、話し合ったことを反映できるよう代表者に報告している	GHの特性を理解し、法人内他施設との異動は無いように配慮されている。異動や離職が殆ど無いので、職員同士も馴染みの関係にあり、上司へも、職員同士でも気軽に相談出来る体制にある。情報の共有化と職員の能力向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの努力を把握し、環境・条件等整備してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修会に参加する機会を設けてもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間との研修会や勉強会に参加、又事業者間との交流も図れるようとりくんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談を受入、また本人さんの話をゆっくり聞き、馴染みの関係が出来るよう職員間でも話し合い連携している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に話を聴くように心がけている。又不明な点等、後日きちんと返事している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合いの場を設け支援内容を見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との時間を大切にし、互いが良い関係になるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況や想いを報告し、共に良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園外活動等本人の希望される場所に出かけたり、買い物にも出かけたりして関係が途切れないようにしている	馴染みの場所や店へ、家族や職員と一緒に出掛けている。毎週自宅に泊まって帰られる利用者もある。昔の俳句仲間からの便りが届いたり、来所されるボランティアの方も長期に及ぶ方が多く、馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士 出来る出来ないでもめそうになるときもあるが、職員が間に入り助け合っ て行ける様な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談に応じたり、面会に訪問したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のペースで生活ができるよう話し合いをしている	利用者同士の会話にも耳を傾け、利用者に合わせた問いかけで何処へ行きたい、何が食べたいなど本人の意思をゆっくりと確認している。様々な場面で、利用者の意思を表出できる機会を積極的に作っている。職員の気づきは、記録カルテや連絡ノートに記載され、職員で共有している。	職員のケアの中での気づきが記録に残りにくく、情報の共有が不十分であると自己評価されているので、この機会に、書式などを再検討されるとよいでしょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後しばらくすると家族から今までの生活状況等はなしてもらえ関係作りが出来ている。又日々の生活の中で自分から話されることもある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日心身の状態を把握し無理の無いよう、そして力が引き出せるよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議にて意見交換し、他ユニットリーダーに相談したりNsからの助言をもらい介護計画に反映している	月に1回、ユニット毎に処遇会議を開き、利用者のケアや課題について話し合い、全体会議で報告している。全体会議では、意見交換を行い、現状にあったプランに見直している。	介護計画に沿った評価を行い、目標の達成度などが、わかりやすい記録を検討されるとよいでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、話し合いを行いケアの実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族や希望があればすぐ上司に相談し、対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や外部からの情報を収集し、参加したり来所してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切に適切な医療が受けられるよう相談したり良い関係作りに努力している	協力医による、定期的な往診がある。在宅中からのかかりつけ医に継続して往診してもらっている方もある。受診や入退院の際には、職員が家族と同行し、病状説明や指導を聞き、状況を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	きちんと状況報告をNsに行いDrへの相談・指示を仰げるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換をし、面会に行きNsや介護職員さんとの関係作りをし情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に合わせてその都度話し合いをし、十分に説明し取り組んでいる	入所の際、重度化、終末期に向けた方針を家族に伝え、了解を得ている。医療が必要になられた方には、その都度、家族とも話し合い、納得した上で対処している。これまで、ホームでの看取りのケアはされていない。	1日の出来事や想いを日記に書いたり、献立を思い出してもらおう等、機能維持に努めているが、ホームとしては開設16年目であり、利用者の高齢化、重度化による日常生活を見直し、心身の機能維持、回復に努めていかれることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法を学んだりマニュアルに添って定期的に話し合いを行い、いつでも実践できるように身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の方の協力のもとで避難訓練を実施、定期的に職員間でも避難経路について話し合いをしている	地域合同避難訓練も定期的に行われ、夜間想定を含めた本番さながらの訓練を実施している。年2回の救命講習も行われている。駐在さんからの地域への働きかけもあり、緊急時の避難場所が確保され、災害に対する体制も検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持って接するようにしている。居室へ入室する際にはノックしたり、声を掛けたりしてから入るようにしている	研修を始め、職員への教育が充実している。排泄を失敗された方への接し方なども話し合われていた。日常の場面でも利用者への配慮が伺え、職員を信頼し、安心して生活されていた。個人情報に関する文書や同意書などもきちんと整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自己決定できるような声掛けをし、自信を持って生活していただけるようにしている(買い物・外出など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の日常生活を大切に、体調に配慮しながら出来るだけ希望に添った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみが整えられる方には見守りをし、出来ない方にはさりげない助言をしたり援助している。2ヶ月に1回散髪を利用している方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に盛り付けから片付けまで行っている。又職員は弁当持参だが汁は一緒に作り、月に4~5回は同じ食事を共に楽しくいただいている	法人の栄養士がたてた献立を基に、専属の職員が調理している。毎月、厨房職員も利用者と一緒に食事して、直接希望を聞いている。食材を洗ったり、切ったりの下ごしらえは利用者が手伝っている。各ユニットで利用者に合わせて食べ易くしたり、汁物を作り、職員も一緒に食べている。週1回は好きなメニューを作ったり、オヤツ作りなども楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のテックを行い、嗜好によって食べにくいものなど形を変えたりして出来るだけ満遍なく食べられるよう工夫をし水分摂取量も把握している。基礎疾患のある方にはDrと相談しながら配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし実施、異常を発見した場合は、早期にしか受診ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しさりげない声掛けで対応している	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握して、早めに誘導を行っている。その結果、紙パンツから布パンツとパット使用になられた方や、尿量を把握することで薄いパットで過ごせるようになった方など自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使用しないよう、運動や、水分量の目安を決め、食事についても繊維食品を多く取れるよう汁物などで工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに実施しているが、できるだ希望に添えるよう支援している。又夜希望されるときは、他ユニット職員の協力を得て行う事もあるが、できないときはきちんと説明し了解を得、清拭で終わることもある	タ方の入浴や毎日の入浴など利用者の意思を尊重したうえで、支援を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠は個々に違うので練れないときはお茶を飲んだり話を聴いたり安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に一人ひとりの薬の用法・用量を理解したうえできちんと飲まれるまで確認するようにしている又誤訳防止マニュアルに添って確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・野菜切り等利用者の出来ることを引き出し、役割を持っていただき生活の張り合いを見つけられるよう、また楽しく生活していただけるよう一緒に考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩しながら寄り道をしたり、外食も希望に添って出かけられるよう話し合い、計画を立て実施、今年は映画鑑賞にも出かけた	敷地内の散歩や職員と一緒に近くのスーパーに買い物に行くこともある。利用者の希望、要望を取り入れ個別の外出(墓参り、自宅へ外出、理髪店、外食、ドライブ等)も支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は所持しておられないが、必要な時には立替をするなどし、いつでも使えるよう家族と連絡を取り合っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があればきちんとやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合った花を飾ったり、食堂にも家庭的なものを置いている。又混乱をまねかぬ様、表札や印をつけている	季節の花や絵、利用者の楽しそうな様子の写真が飾られ、居心地の良い空間になっている。換気やポータブルトイレの更新など、臭いには十分気を配っている。風通しの良い構造であり、冬期は、居室や共有空間の温度調整に暖房器具を苦慮されていた。	低い位置に温度計を設置するなど、足元の温度調整に気を配って頂きたい。又、脱衣所には、荷物の整頓(目隠しなど)を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごせるよう食堂も開放している。他者の居室でお互いが談話されることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し自宅で使い慣れた家具等を使用しておられる。そして家での生活と差がないようにしている	利用者が、自宅で使い馴染んだ家具や大事な物を持ち込んで頂き、安定した生活の場の提供を心掛けている。毎週自宅に帰られる方もあり、あくまでも第2の家として、荷物を少なくすることで穏やかに過ごされる方もいる。利用者の希望に沿った居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等に目印や表札をつけたりし好きなどころへ行けるよう配慮している、		